

制について」と題し、災害医療におけるあり方に関する検討会で示された災害医療ロジスティクスに関する課題と今後の方針について報告があった。その上で関連企業・団体との連携・協力の必要性と、安全確保・補償・費用・迅速性・協力要請の手段・営業区域外での活動等の課題があることが明らかになった。

次に東日本高速道路榑谷川敏治から「常磐道守谷SA防災拠点化実証訓練について」と題して守屋SAの防災拠点化構想と共に実際に実施した訓練について報告がなされた。

さらに東日本大震災での実災害からの課題として「花巻空港SCUにおける空路参集DMATの問題点」SCUとロジスティクスステーション併設の必要性について神戸赤十字病院中田正明から報告があった。その際、空路参集したDMAT等医療チームのその後の移動手段の課題について示され、また活動に必要な資機材や宿泊・食事等の確保が求められることからSCUと併設したロジスティクスステーションの必要性について示された。

また「東海地震で静岡県入りするDMATのロジスティクス」と題して静岡県健康福祉部・静岡県立総合病院 災害医療センター安田清から報告がなされた。静岡県として被災した場合、高速道路が使用可能な場合とそうでない場合の移動・輸送手段を静岡県としてどのように環境を整えていくかについてそのプランの概要が示された。

その後、特別発言として東京防災救急協会 野口栄一から「既存の地域資源を活用した活動拠点機能の形成」及び日本福祉タクシー協会 田中義行から「日本福祉タクシー協会について」をテーマに報告があった。大手チェーンストアや生協また全日本トラック協会や長距離フェリー協会等の災害時の活動について示されるとともに日本福祉タクシー協会における災害時の福祉タクシー活用の可能性について報告された。

そしてNTT 吉田治生から「大規模災害発

生時における重要通信の早期確保に向けて」のテーマで東日本大震災における通信環境の被災状況や復旧状況、さらに今後の取り組みについて報告があった。

最後に「DMAT訓練における日本赤十字社業務用無線局の活用について」をテーマに武蔵野赤十字病院の高桑大介から、DMATとの協働を前提に日赤のリソースやAPEC等の実際の無線活動事例が紹介され、特に四国・静岡における無線通信環境整備について検討した内容について示された。

全体の発表後にそれぞれの観点からロジスティクスステーションの設置構想についてディスカッションが行われた。まずはSAの拠点のロジステーション、またSCUにおけるロジステーションについてである。設置に必要な環境をどのように考えるか、ということであったが、フロアから旅行会社の協力についてコメントがあり今後検討していくこととなった。さらに現況資源の活用として静岡県の事例報告があり、東京防災救急協会、さらに日本福祉タクシー協会の事例から特に民間企業との協力関係構築について検討していくことの必要性が認識された。最後にNTT、日本赤十字社による通信環境整備について今後の在り方を示唆された。

今回の企画は、ロジスティクスにかかわるそれぞれの企業・団体等から発表・報告いただき、災害医療を効果的に実施するために課題となる項目について関係者に直接質問ができ、また意見がうかがえたことで有意義なシンポジウムとなった。

今後はこうした各団体との関係を大切にするとともに提案のあったロジスティクス拠点(ステーション)構想の具体的展開についてさらなる検討を進めていく必要がある。

各団体発表スライドを資料4に示す。

7. 被災地内における通信環境の確保に関する検討

現在、EMISはDMAT運用に不可欠なツールとなっている。従って、DMATの本部機能に

インターネットは不可欠である。本部にインターネット環境を確保するためには、本部長、本部要員となる統括 DMAT を持つ医療機関に、データ通信可能なコンピューターと通信機能の整備が必要である。

今年度は、昨年度に引き続き、独立行政法人宇宙航空研究開発機構 JAXA との連携による通信手段確保の可能性について検証した。

政府総合防災訓練においては、高知県及び徳島県の各県と JAXA 間との協定に基づき、それぞれの県庁に地球局を設置し JAXA の超高速インターネット衛星「きずな」を利用したインターネット環境を構築した。高知県においては、県庁と SCU 間のテレビ会議システムとして機能させた。(図 14)

また、平成 24 年度 DMAT 関東ブロック訓練においては、JAXA 筑波宇宙センターから病院や SCU に搬送し、通信を確立する訓練を行った。(図 15)

一方、政府総合防災訓練においては、衛星 (Ipstar 等) を通じた通信確保についても検証した。高松空港 SCU、松山空港 SCU で IPSTAR を使用し、シスコシステムズ合同会社が提供する ECK (防災キット) を設置した。(図 16) 南南西の空が見渡せ、SCU 近隣に衛星アンテナを設置した。ECK を展開して、ネットワーク運用を開始し、インターネット環境のほか電話環境 (IP 電話) も構築した。今回の訓練では、アンテナ設置～ネットワーク運用までの時間、運用に必要な人員数、機材の重量、通信切断の頻度 (時間) について検証した。その結果、準備開始からネットワーク運用までは、4～5 時間であり、アンテナ設置に 3～4 時間、ネットワーク運用 1 時間かかることが分かった。また、設置・運用に要した人数は 4 名であったが、最低限、アンテナ設置に 1 名、ネットワーク運用に 2 名の 3 名が必要であると考えられる。使用資器材重量は、アンテナ設置機材含み約 40kg であった。通信切断の頻度としては、訓練中の回線切断は確認できなかった。

通信としては、日赤無線の活用についても検討した。政府総合防災訓練においては、四国 4 県それぞれにおいて、日赤無線の活用について検証した。多くの医療機関が日赤無線により通信可能なことが検証できた。その一方、機材、通信オペレーターを含めた日赤支部レベルの絶大な協力が必要であること、どのような内容の通信を行うかを明確にしておくことが必要であること、基地局の運用による無線統制、混信防止など調整・介入が必須であること、赤十字病院関係者への機材、運用教育不足等の課題があることもわかった。(図 17)

D 考察

DMAT の運用と指揮の基本的な考え方についての検討から、DMAT 運用における基本的な考え方は整理された。これらは、統括 DMAT 研修や DMAT ロジスティックチーム研修の講義における基本的な考え方として活用できる。

統括 DMAT 研修の検討、都道府県担当者研修の検討の成果として、今年度の統括 DMAT 研修、統括 DMAT 技能維持研修、都道府県担当者研修のカリキュラムが提示され、そのカリキュラムに従い、研修が行われた。

地方ブロックにおける訓練のあり方の検討においては、昨年提示された訓練の基準に基づき、各ブロックにおける訓練が提示された。また、この訓練の検証の中で明らかとなったブロック訓練での個人参加の問題は、DMAT 検討委員会における、DMAT 隊員の更新要件の見直しを図る上での基礎資料として活用された。

ロジスティック要員の研修のあり方に関する研究において、DMAT ロジスティックチームのあり方が提示された。これは、これは、DMAT 検討委員会における作業部会の基礎資料として活用され、内容は、作業部会答申に反映された。また、DMAT ロジスティックチームの研修カリキュラム、そして、地方ブロックにおける DMAT 業務調整員の研修カリキュラムが提示された。今年度、

この研修カリキュラムに則り、試行の研修が実施された。今後は、この研修を体制的に行っていくとともに、訓練を通じて実効性を高めていくことが課題である。

ロジステーションの具現化に関する検討は、関連業界の窓口と連携についての研究、NEXCO との連携に関する研究、被災地内における交通手段の確保に関する研究、酸素濃縮機の確保に関する研究が行われた。

関連業界の窓口と連携についての研究から、医療と直接関係のない業界においては、DMAT 及びその活動についてあまり知られていないことが分かった。DMAT の活動について説明会等の開催が必要である。一方、各業界では東日本大震災での被災者への支援活動を行っている。その中で、支援活動には個々の会員（加入会社）の判断が大きいことが分かった。今後も継続してヒアリングを実施し、関係業界との連携を協力体制の可能性についてディスカッションをしていくことが求められる。今後は、課題の整理を含め協力要請手段等の具体的な検討を進めていくことが必要である。

東日本大震災では高速道路 SA は重要な中継地点であり補給場所であった。今回は、東、中、西の全ての NEXCO 各社と訓練、検証が行えたことは成果である。今回の訓練の検証を通じて、高速道路 SA は参集拠点や進出拠点になりうることが分かった。補給機能の向上、他機関との連携における具体的な情報共有手法が課題であった。今後は、他 SA・高速道路での更なる検証が必要である。

被災地内における交通手段の確保に関する研究において、タクシー業界、福祉タクシー業界との連携できる可能性は大きいことが確認できた。DMAT が自らの必要性に合わせて使える交通手段を確保できる意義は大きい。DMAT 本部から早めに活動部隊に車両使用の権限を引き渡すことが肝要であることもわかった。一方、バスや福祉タクシーでの患者搬送については、搬送方法等についてさらなる検討が必要である。今後も

継続的な連携訓練を行いながら、協力要請手段等の具体的な検討を進めていくことが必要である。

酸素濃縮機の確保に関する研究から、酸素濃縮機の工場から近隣の地域への輸送は現実性が高いことが分かった。今後は、より遠隔な地域へ空路搬送も含めた搬送方法の検討が必要となる。

被災地内における通信環境の確保に関する検討では、今年度は、JAXA との連携による衛星通信体制の確立、IPSTAR、ECK（防災キット）を用いた衛星通信体制の確立、日赤無線の活用について検証した。

JAXA との連携については、今年度の訓練を通じて、その通信速度を生かしたテレビ会議システムの有用性を確認するとともに、展開訓練により実効性が高まった。今後は、遠隔地域への展開訓練の実施などが課題である。

IPSTAR、ECK（防災キット）を用いた衛星通信体制は、訓練による検証の結果、DMAT の通信手段として非常に有効であることが分かった。課題としては、可搬型ではないため時間がかかること、設置するにあたり専門的な人員が必要であること、機材と設置者の輸送手段が必要であることがあげられ、今後更なる検証が必要である。

日赤無線の活用のためには、それぞれの県内でどのようにすれば無線がつながるのかを各県日赤支部ごとに把握、改善が必要であることが示唆された。現時点では、無線機を持って来たチームの位置連絡や単なる連絡用（トランシーバー代わり）となっている可能性がある。設備投資に対する費用対効果を念頭に置く必要があるものと考えられる。

E 結論

本研究においては、昨年度、東日本大震災の教訓を踏まえた DMAT の運用、ロジスティックのあり方の方向性を示し、本年度の研究において、運用の基本的な考え方をより整理し、それを基にした統括 DMA T 研

修や都道府県担当者研修のカリキュラム策定したこと、ロジスティックチームのあり方とロジステーションの具現化に向けたNEXCO等と連携した訓練による検証したこと、被災地における通信手段の確保手法の検証ができたことが主な成果である。

これらの成果は、ロジスティック体制や行政によるDMAT運用体制の整備に貢献し、急性期災害医療体制の整備に寄与したものと考えられる。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1 論文発表

- 1) 中田正明. 東日本大震災における花巻空港 SCU 本部での情報の取り扱いについて. 日本集団災害医学会誌
- 2) 中田正明. 東日本大震災における被災地での X 線装置の必要性について. 日本集団災害医学会誌
- 2 学会発表
- 3) 谷川敏治. 常磐道守谷 SA 防災拠点化実証訓練について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 4) 楠孝司. ロジスティクス拠点における関連業界団体との連携・協力体制について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 5) 高桑大介. DMAT 訓練における赤十字業務用無線の運用について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 6) 安田清. 東海地震で静岡県に参集する DMAT のロジスティクス. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 7) 吉田治生. 災害時における重要通信の確保について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 8) 中田正明. 花巻空港 SCU における空路参集 DMAT の問題点. 第 18 回日本集団

災害医学会 2013 1 月 神戸市

- 9) 楠孝司. NHO 災害支援におけるロジスティクス. 第 66 回国立病院総合医学会 2012 10 月 神戸市
- 10) 中田正明. 災害医療ロジスティクス研修会における全国展開の現状とあり方について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 11) 中田正明. SCU 本部における円滑なロジスティクス組織について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 12) 萬年 琢也. 災害時における医薬品の供給体制整備に向けた取り組み. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 13) 市原正行. 政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 14) 大野龍男. 災害時の高速道路 SA を DMAT 参集拠点にすることについての検証. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 15) 小塚浩. 高速バスによる患者大量搬送の実際と課題 “H24 年広域医療搬送実施訓練を通して”. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 16) 甲斐東悟. SCU での衛星通信の有用性の検証. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市
- 17) 萩原大貴. 24 年度国立病院機構 DMAT 研修について. 第 18 回日本集団災害医学会 2013 1 月 神戸市

H. 知的財産権の出願・登録状況
特になし。

図1: DMAT本部機能の強化

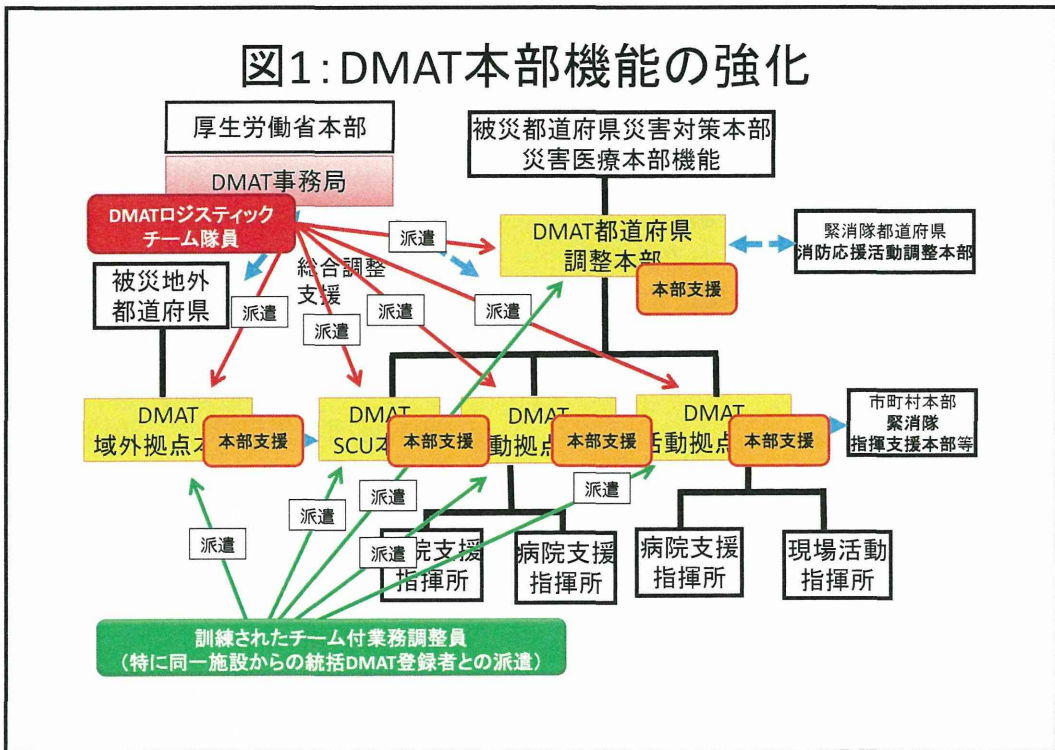


図2: DMATロジスティックチーム等々の活動
【指揮下のDMATのロジスティクス(DMATの活動に関わる通信、移動手段、医薬品、生活手段等の確保)】

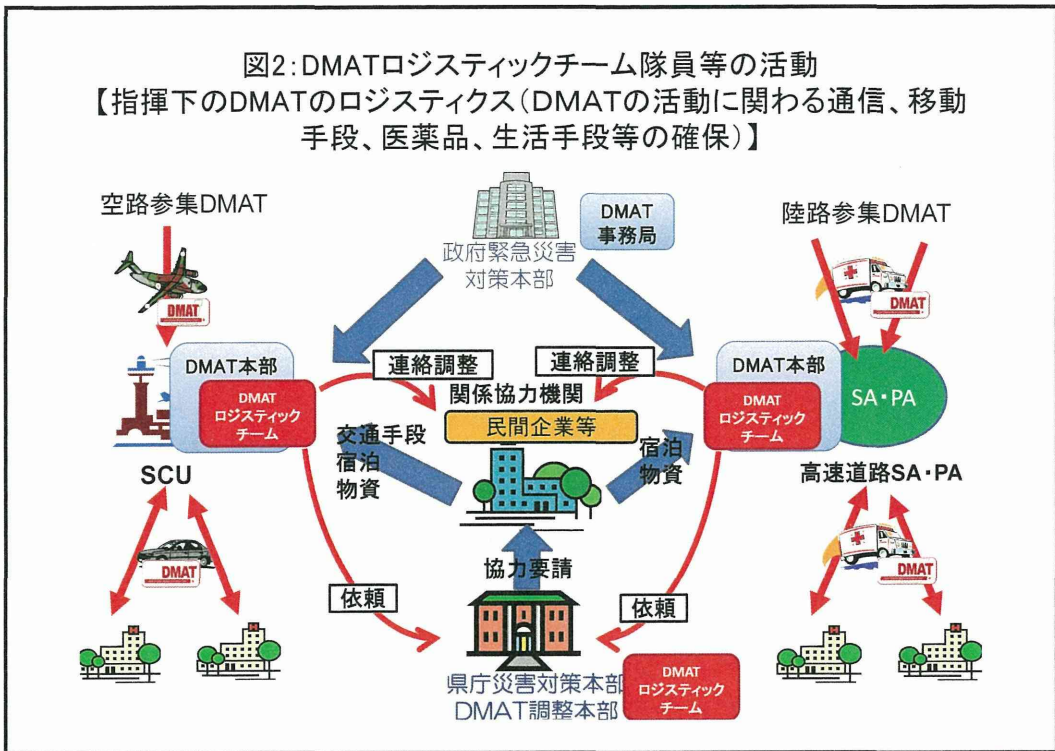


図3:DMATロジスティクスチーム隊員等の研修

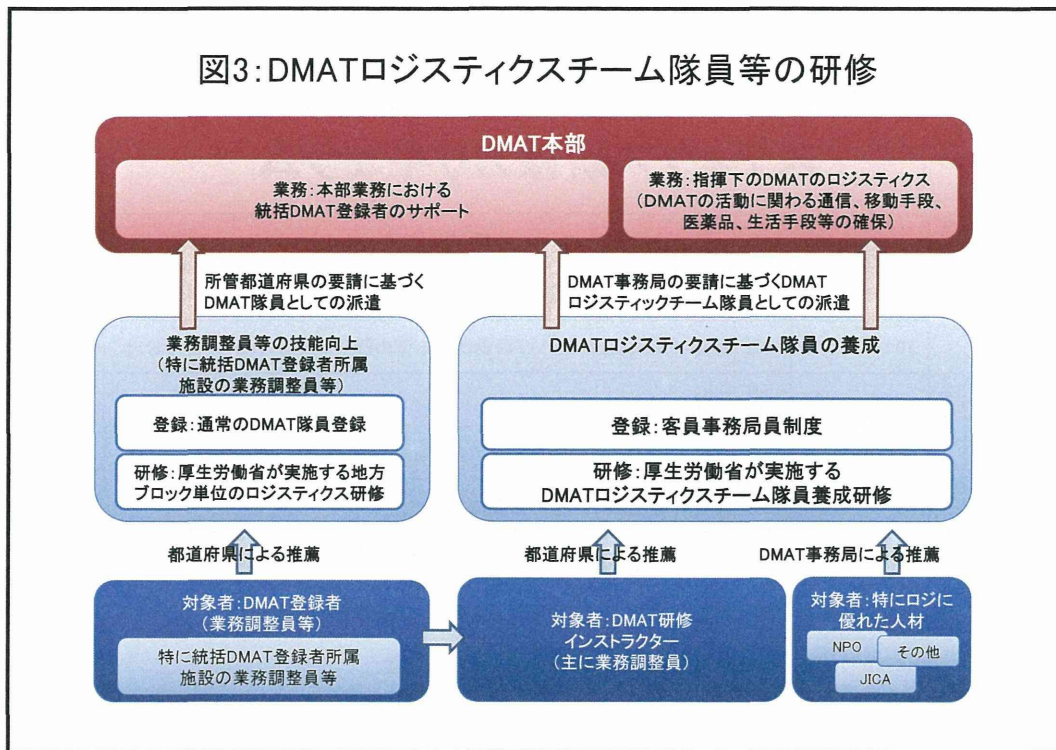


表1:DMATロジスティック隊員養成研修カリキュラム案

形式	開始時刻	終了時刻	時間	講義名
初日				
講義	13:00	13:30	0:30	DMATロジスティックチームの活動について
講義	13:30	14:00	0:30	DMATにおける戦略・戦術について
	14:00	14:10	0:10	休憩
実習	14:10	15:40	1:30	EMIS・クノロロ→指揮系統図(資源)・患者一覧表(需要)・問題解決リスト→地図上への配置
	15:40	15:50	0:10	休憩
机上演習	15:50	17:20	1:30	各本部の役割(指揮階層の理解)
	17:20	17:30	0:10	休憩
講義	17:30	19:00	1:30	事例紹介
2日目				
実習	9:00	10:30	1:30	机上演習「ロジスティック拠点の設置及び運営」
	10:30	10:40	0:10	休憩
実習	10:40	12:10	1:30	DIG「南海トラフ地震対応」

表2:DMAT登録者を対象とするロジスティクス研修カリキュラム

月日	時間	プログラム
1 日 目	9:30~10:00	30分 講義 1「DMAT本部機能におけるロジスティクスの充実・強化について」
	10:00~10:50	50分 講義 2「机上演習 DMAT活動拠点本部の設置と運営(EMIS実習含む)」
	10:50~11:00	10分 休憩
	11:00~11:45	45分 講義 3「DMAT活動拠点本部における EMISの活用」(EMIS実習)
	11:45~12:00	15分 講義 4「各DMAT本部の活動について」
2 日 目	13:15~13:25	10分 講義 5「DMAT活動拠点本部の設置・運営実習の実施要領について」
	13:25~14:30	65分 講義 6「実習 DMAT活動拠点本部の設置(通信環境確保)」
	14:30~16:15	105分 講義 7「実習 DMAT活動拠点本部の運営」

表3:地方ブロックDMATロジスティクス研修、DMATインストラクター研修会の実施について

○地方ブロックDMATロジスティクス研修					
No.	開催年度	地方ブロック	実施日	実施場所	受講者数
1	平成20年	近畿	2009/1/9-10	兵庫県災害医療センター	36
2	平成21年	近畿	2009/7/24-25	兵庫県災害医療センター	19
3		近畿	2010/1/30	大阪府立急性期・総合医療センター	31
4	平成22年	近畿	2010/7/27	兵庫県災害医療センター	29
5		近畿	2011/2/26	奈良県新公会堂	31
6	平成23年	近畿	2012/1/6	大阪府庁	13
7		近畿	2012/3/10-11	大阪府立急性期・総合医療センター	41
9	平成24年	関東	2012/5/26	内閣府立川予備施設	111
10		中国・四国	2012/8/4-5	香川県立保健医療大学	46
8		近畿	2012/11/4	八尾空港	44
11		東北	2013/1/5	仙台市急患センター	98
12		九州・沖縄	2013/1/10	国立病院機構九州医療センター	130
13		北海道	2013/1/13-14	国立病院機構北海道医療センター	29
14		関東	2013/3/9-10	済生会宇都宮病院	47
15		近畿	2013/3/9-10	京都医療センター	46
16	中国・四国	2013/3/16-17	徳山中央病院	60	
○DMATインストラクター研修					
1	平成23年	—	2012/3/24-25	京都府立医科大学	117
2	平成24年	—	2013/3/23-24	福島県内	113

図4: ロジステーションの関連業界

移手段 <ul style="list-style-type: none"> タクシー業界 レンタカー業界 	被災地生活 <ul style="list-style-type: none"> 給食サービス業界 病院寝具業界 建設機器リース業界 	ガソリン・燃料 <ul style="list-style-type: none"> 石油業界 	輸送 <ul style="list-style-type: none"> トラック業界 	患者移送 <ul style="list-style-type: none"> 福祉タクシー業界 民間救急業界
通信 <ul style="list-style-type: none"> 通信会社 移動無線 衛星通信 	医薬品 <ul style="list-style-type: none"> 医薬品卸業界 	医療器材 <ul style="list-style-type: none"> 医療機器販売業界 医療機器製造業界 医療材料販売業界 	酸素(在宅) <ul style="list-style-type: none"> 医療ガス業界 在宅酸素業界 	拠点 <ul style="list-style-type: none"> 高速道路SA

表4

ヒアリングシート (手持ちシート)	
前段・目的	
・貴団体が災害時に考えられている支援活動があれば教えてください	
・今般の東日本大震災での貴団体の活動について教えてください	
・DMATの活動は知っていますか	
・貴団体がDMATの活動に協働できる部分はあるでしょうか	
項目	内容
①災害時の窓口(連絡先)	・担当部署(担当者) ・電話番号(内線) ・夜間休日の連絡先 ・災害時の連絡手段
②全国への対応の可否	・全国の窓口として機能してもらえるか ・災害時に関連地域の加盟会社を紹介していただく ・貴団体の枠組みについて教えてください
③災害時に何が出来るか	・提供できる物品 ・提供できる車両 ・提供できる人員(技術) ・提供できる場所 ・提供できる機材(仮設) ・提供手段
④DMAT事務局との災害時支援協定等は可能か	・自治体等との協定を既におこなっているか
⑤費用支弁についての考え方	・企業(団体)としての災害支援としての位置づけ ・依頼者(DMAT)への費用請求 ・被災者への費用請求
⑥DMATロジスティクスチームへの参加(災害時)の可否	・ロジステーションへの人員派遣の可否
⑦研修参加希望の有無(DMATを知ってもらう)	

図6-1 DMAT(災害派遣医療チーム)参集訓練・患者搬送連携訓練



陸上自衛隊とDMAT隊との患者搬送訓練



緊急開口部を用いた患者搬送訓練(Drカー)



現地本部運営訓練の状況



茨城県ドクターヘリ(MD902)による患者搬送訓練

図6-2 自衛隊による訓練(ヘリ、通信構成、進出訓練)



通信構成訓練の状況



UH-1 多目的ヘリコプター 守谷SA場外離着陸場



ヘリ映像伝送訓練の状況



東北道 岩舟JCT上空 LIVE映像



図6-3 NHKヘリによる守谷SA着陸訓練及び
小型伝送機材運搬・映像伝送訓練



守谷SAに着陸するNHK報道ヘリ

高電圧自家発電車

小型映像伝送機

移動基地局車

図7: 平成24年度関東ブロックDMAT訓練概念イメージ図

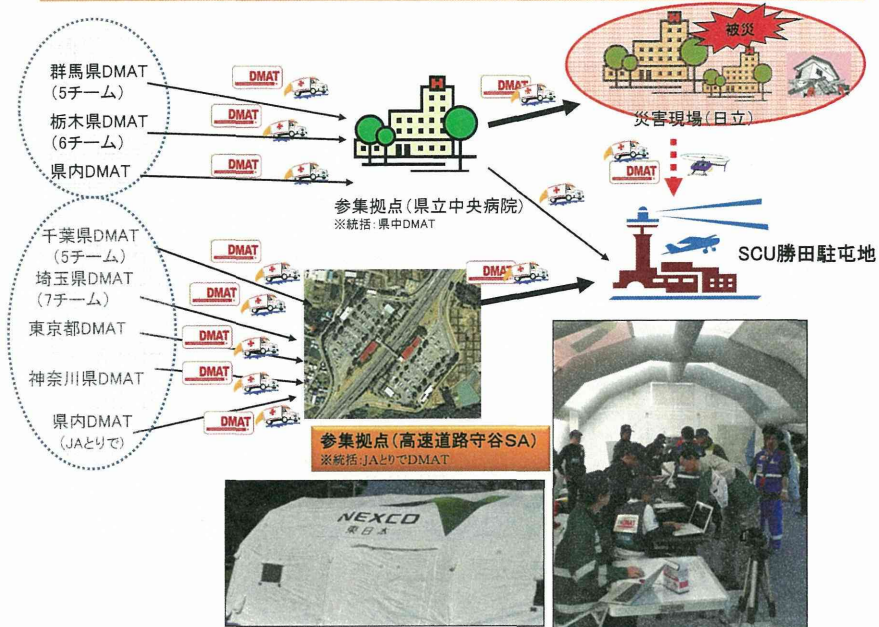


図8-1:平成24年度近畿ブロックDMAT訓練概念イメージ図



図8-2:平成24年度近畿ブロックDMAT訓練実施状況



図9: 中部ブロック実働訓練概念イメージ図
 平成25年3月2・3日 DMAT50チーム258人参加

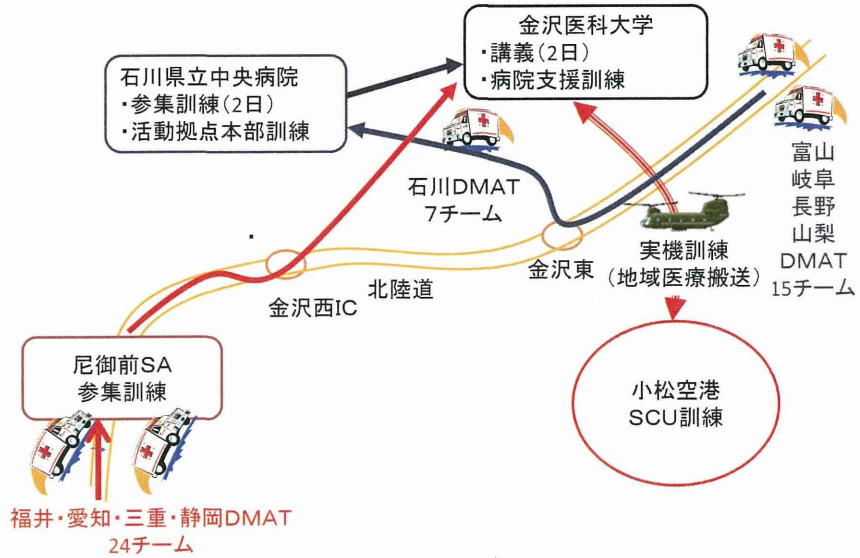


図10: 移動・搬送手段の確保

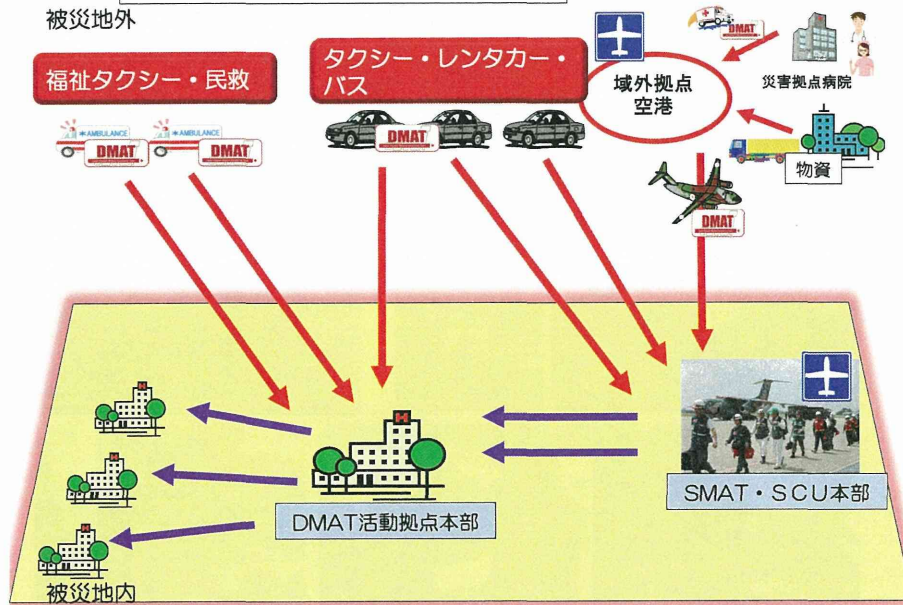


図11：平成24年度近畿ブロック訓練における
福祉タクシーによる患者搬送



図12-1：政府総合防災訓練における患者バス搬送訓練



徳島県立中央病院
から高松赤十字病
院へ透析患者を搬
送

高知大学医学部付属
病院から高知医療セ
ンター・高知赤十字病
院・近森病院を經由し
松山空港SCUへ傷病
者ならびに透析患者
を搬送

図12-2: 政府総合防災訓練における患者バス搬送訓練の状況



図13: 政府総合防災訓練におけるハイサソ輸送経路(往路)

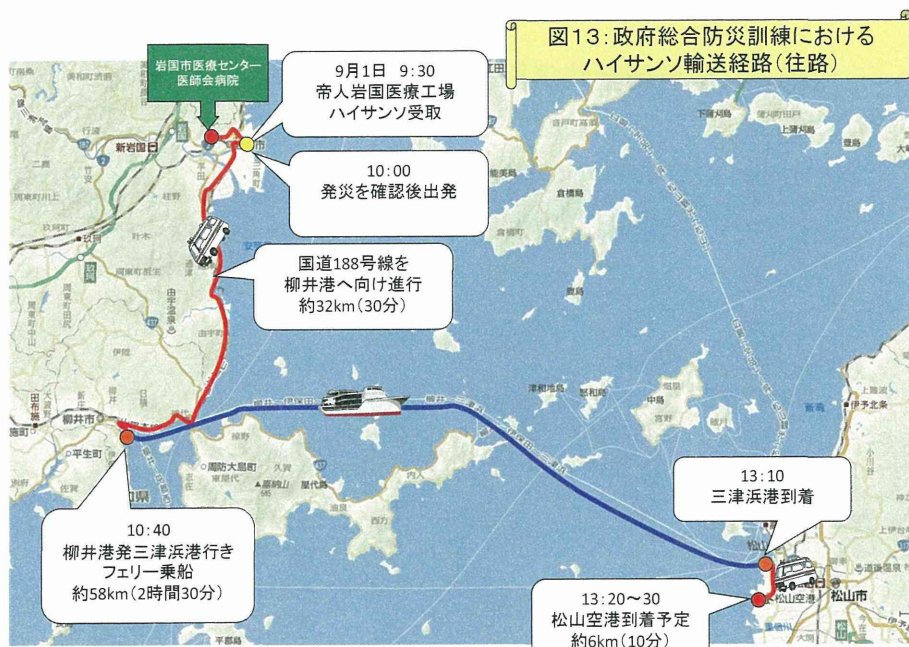


図14:平成24年度広域医療搬送訓練での連携訓練概要

- 高知県及び徳島県の各県とJAXA間との協定に基づき、それぞれの県庁に地球局を設置。
- JAXAの超高速インターネット衛星「きずな」を利用したインターネット環境を構築した。

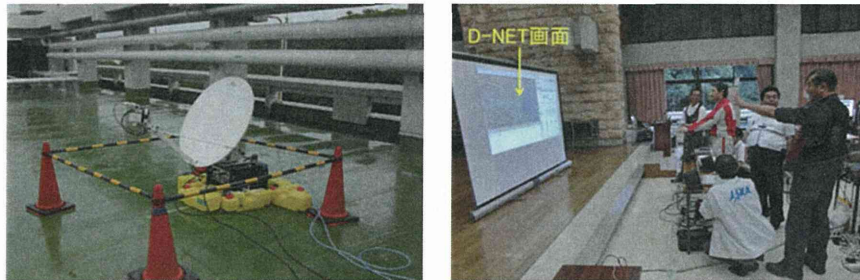


図15:平成24年度DMAT関東ブロック訓練での連携訓練概要



図16: 衛星アンテナ、ECK(Emergency Communication Kit)

高松空港SCU、松山空港SCUにそれぞれ設置

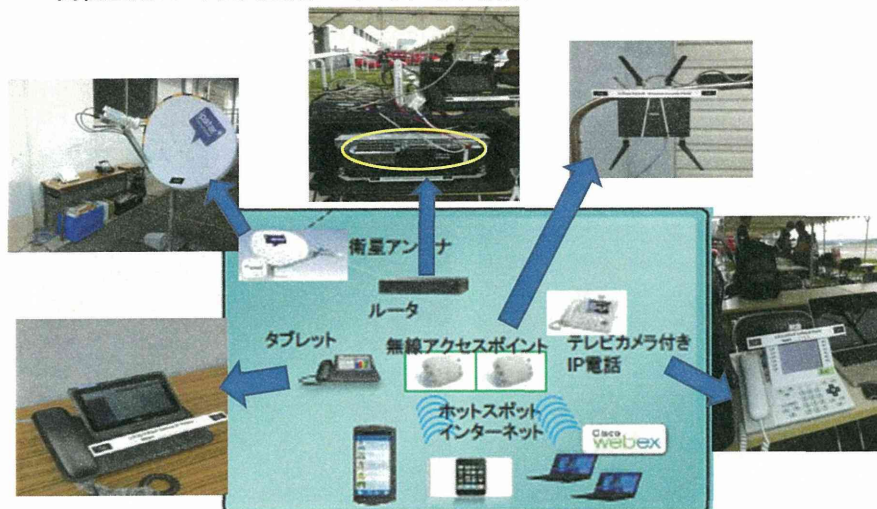
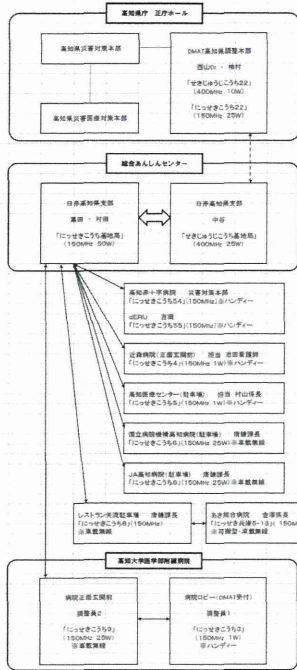


図17-1 高知県日赤業務用無線配置



図17-2高知県日赤業務用無線運用



「こせきこうふれあい公園」の運用において、運用は従来のみとするが、中谷と高知市に於ける必要のある時間帯は、各自には、運用体制を定めておく。

病院間で無線運用は原則行わないこと

運用病院およびJJA高知病院と高知県本部車庫で稼働し、入って無線運用を行う



あき総合病院



高知県庁



可搬セット

図17-3徳島県日赤業務用無線配置



図17-4：香川県日赤業務用無線配置



図17-5愛媛県日赤業務用無線配置



平成24年度統括DMAT研修プログラム

資料1.1

2013/2/14~2/15

月日	時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所
第 1 日 目 2 月 14 日 （ 木 ）	10:00 ~ 10:10 10分	オリエンテーション	災害医療センター
		開会式	地域医療研修センター
	10:10 ~ 10:20 10分	1. 講義「本研修の意義」 ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真	外来棟 4階
	10:20 ~ 10:50 30分	2. 講義「DMAT戦略・戦術」 ※ 担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎	
	10:50 ~ 11:10 20分	3. 講義「ロジスティックス」 ※ 担当：国立病院機構災害医療センター 市原 正行	
	11:10 ~ 11:20 10分	休憩・移動	
	11:20 ~ 12:20 60分	1～5班：講義 4-1「局地災害（机上シミュレーション）」 ※ 担当：名古屋掖済会病院 北川 喜己 / 回生病院 関 啓輔 福島医科大学 島田 二郎	看護学校 2階 体育館
		6～10班：講義 5-1「実習：EMIS訓練」 ※ 担当：兵庫県災害医療センター 中山 伸一 / 神戸赤十字病院 中田 正明	地域医療研修センター 外来棟 4階
	12:20 ~ 13:10 50分	昼食	
	13:10 ~ 14:10 60分	6～10班：講義 4-2「局地災害（机上シミュレーション）」 1～5班：講義 5-2「実習：EMIS訓練」	看護学校 2階体育館 地域医療研修センター外来棟 4階
	14:10 ~ 14:20 10分	休憩・移動	
	14:20 ~ 14:50 30分	6. 講義「東日本大震災におけるDMAT活動と今後の対応」 ※ 担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎	地域医療研修センター 外来棟 4階
	14:50 ~ 15:00 10分	休憩・席替え	
	15:00 ~ 15:50 50分	7. 机上演習「DMATにおける各本部の役割1：DMAT活動拠点本部」 ※ 担当：新潟市民病院 熊谷 謙 / 東北大学病院 山内 聡 総合回生病院 関 啓輔 / 熊本赤十字病院 井 清司	地域医療研修センター 外来棟 4階
	15:50 ~ 16:40 50分	8. 机上演習「DMATにおける各本部の役割2：DMAT都道府県調整本部」 ※ 担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎 / 国立大学法人鳥取大学 本間 正人 / 福島県立医科大学 島田 二郎 / 岩手県立中部病院 真瀬 智彦	
	16:40 ~ 16:50 10分	休憩・席替え	
	16:50 ~ 17:35 45分	9. 講義「事例からの教訓1：中越沖地震」 ※ 担当：／新潟市民病院 熊谷 謙 / 新潟県厚生連村上総合病院 林 達彦 国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎	地域医療研修センター 外来棟 4階
	17:35 ~ 18:35 60分	10. 講義「事例からの教訓2：東日本大震災」 ※ 担当：／新潟市民病院 熊谷 謙 / 東北大学病院 山内 聡 横浜労災病院 中森 知毅	